

2. 生活習慣

金銭の浪費

Question 一質問一

子どもが中学に入ってから、急に金遣いが荒くなりました。どこまで使わせていいのかわかりません。

Answer 一答え一

月々一定の小遣い額を決めましょう。子どもと話し合っ、親も子も「これくらいだったらちょうどいいだろう」という額にしましょう。わが家の方針と小遣いの限度額を明確に示して子どもと話し合うことは、家族の一員としての子ども自身の自覚や責任感を高めます。

月々のお小遣いはどのくらい？

小学5年生 … 500 円

中学1年生 … 1,000 円

中学3年生 … 2,000 円

(平成18年 奈良県教育委員会アンケート調査)

決められた範囲内でどうやりくりするかを考えるのも、生きていくうえでの大切な学習です。



Column 一コラム一

金銭トラブル

小遣いの値上げを要求する、家のお小遣いが見られるようになったら注意するトラブルに巻き込まれているかもしれない(買い与えていない)高価な物をです。

また、ちょっとしたお金の貸し借りがくしゃくしてしまう場合があります。小で必要なものとして親が与えたもので貸し借りをしたり、おごったりおごられることを、日頃からきちんと話しておきま



Column -コラム-

TVゲーム

子ども同士や大人と一緒に遊ぶことによって、子どもの心の発達が進められると言われています。では、TVゲームはどうでしょうか。ある精神神経科医は、友だちとのつきあいやストレス解消などの理由で、親がTVゲームを認めがちだが、子どもの脳の発達にはよくないものであることを、きちんとおさえておくべきだと述べています。

また、バーチャルリアリティー（仮想現実）の世界に長時間ひたることによって、現実と空想の区別がつかなくなる危険性があります。かけがえのない命までも、リセットすればやり直せる、と安易に考えてしまうこととなります。TVゲームにのめり込むような危険性があるときは、注意しましょう。

金をこっそり持ち出すな
しましょう。お金に関係
れません。逆に、買って
持っている場合も要注意

発端で、友だち関係がぎ
遣いは、子ども本人にとっ
す。友だち同士でお金の
たりする関係はよくない
しょう。

3. 友だち関係

友だちのいない子

Question —質問—

子どもがおとなしく引っ込み思案のためか、学校で友だちがなく、一人ぼっちで過ごしているようで心配です。

Answer —答え—

お母さん、お父さんが子どもの話を聞いて、しっかりと受けとめてあげましょう。「友だちと遊びなさい!」と無理じいするのは禁物です。しかし、友だちをもつことの大切さについては、それとなく伝えましょう。

ほとんどの子どもは、学校でクラスの子もたちと遊んだり、時にはけんかをしたりしながら、友だちとのつきあい方などを身につけていきます。それとともに、友だちと一緒にいたい、友だちから認められたいという欲求が満たされ、安定感が得られます。もし孤立した状態が続けば、一人でいることに慣れて孤立が習慣化し、一人でいることに楽しさを覚えるようにさえなりかねません。



Column —コラム—

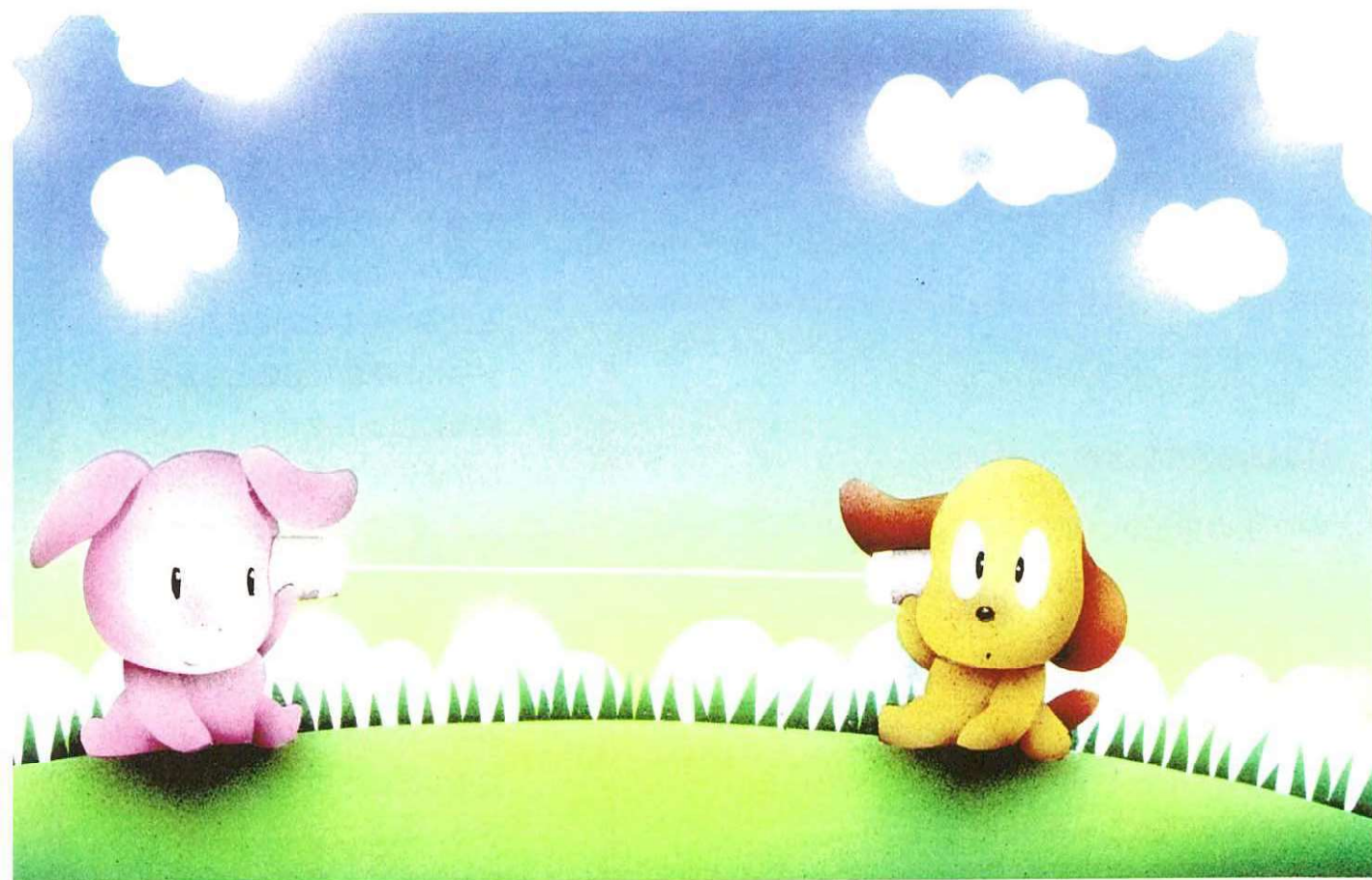
思春期のいじめ

人間は、さまざまなコンプレックスは誰にでもあって当たりが起こることがあります。

思春期のいじめの恐ろしさは、い場合は自ら死を選んでしまったり時期の子どもは、いじめの被害者とされたくないため、大人に打ち明け

しかし、いじめにあっていれば、めにあっていることを隠してしまうかをことばで確認するよりも、わが重要です。日頃から、喜びや苦勞ををいち早くキャッチできます。

子どもにとって、まわりに一人でです。それができるのは、親なので



Column -コラム-

携帯電話

中 学生ともなれば、多くの子どもが携帯電話を持っているのが現状です。有害サイトへのアクセスや高い料金などに悩んでいる親も少なくありません。また、有害サイトへのアクセスが引き金となって、子どもが犯罪に巻きこまれるケースが多くなっています。

携帯電話は、非常に便利なものですが、使い方次第では危険な道への入り口になる場合もあることを、親子でよく話し合いましょう。親が支払う上限を決める、家族との通話以外は子どもが小遣いから支払うなど、親子で使い方のルールを決めましょう。

クスを抱えながら成長していくものです。コンプレッ前のもですが、それが要因の一つとなって、いじめ

じめを受けた側の子どもが不登校に陥ったり、最悪の点にあります。自尊心と現実の葛藤にもがくこの時で苦しんでいても、自分が惨めな状態にあることを知ようとしなくて多いのです。

子どもの日常生活に必ず変化が現れます。親は、いじめ子どもの心理をよく理解し、いじめられているかどうかの小さな変化の兆しを見逃さないようにすることが共有する家族関係を築いていくことで、子どもの変化

もわかってくれる人がいることは、とても大切なことではないでしょうか。

3. 友だち関係

友だちに暴力を
ふるう子

Question —質問—

中学生の息子が、気に入らないことがあると、すぐにかっとなり**友だちに暴力**をふるいます。

Answer —答え—

暴力をふるった理由を、**親が本気で分かるう**としている姿勢を示しましょう。すぐに暴力をふるうのではなく、相手にことばで伝えることや、思い通りにならなくてもがまんすることの大切さを教えましょう。それでも暴力行為がやまない時は、学校や専門機関に相談しましょう。

親がすぐにかっとなって子どもをどなったり、たたいたりしていませんか。また、子どもの周りに暴力をふるう人がいませんか。そのような環境の中にいると、子どもも同じような行動をとりがちです。日常生活では、自分の思い通りにならないことがたくさんあります。でも多くの子どもたちは、たいていのことはがまんすることを身につけています。まわりにいる大人たちが協力し合って、がまんする習慣を身につけさせましょう。環境づくりが大切です。

少年と規範

人は本能的に束縛を嫌い自由を求めます。しかし、したい放題の中では、社会生活は成り立たず争いとなります。したがって、社会生活では自由と自由の衝突を調整するきまり、すなわち規範が必要となります。規範に従って生きていける自律した大人になるために、青少年期に社会生活における規範を身につけなければなりません。

その素地は、自分を律する心構えをもつことから始まります。毎日、規則正しい生活を積み重ねる、あいさつをする、約束を守る、嘘をつかないなどです。幼い頃から、家庭や学校でこのような訓練を受け自然となじんでいくことで、やがて、社会生活における規範を身につけた自律した大人が誕生します。

そのために、教え育てる保護者としては、子どもに対する深い愛情と慈しみの心を伝えることが必要でしょう。こうすることによって、親に対する信頼がつけられていくのです。





Column コラム

飲酒・喫煙



身の発達途上にある子どもにとって、飲酒・喫煙がよいはずはありません。飲酒は中枢神経の働きを低下させ、思考力や自制力を低下させます。急に大量に飲酒すると急性アルコール中毒になります。成人と違い、未成年期からの飲酒はアルコール依存症になりやすい危険性があります。

また、たばこの煙の中には、ニコチン、タールなどさまざまな有害物質が含まれていることはよく知られています。未成年期からの喫煙が特によくない理由は、①成人してから始めた場合より有害性が強い、②比較的短期間にニコチン依存に陥りやすい、③シンナーなどの薬物乱用に進みやすいことです。また、まわりの人がたばこの煙を吸ってしまうこと（受動喫煙）によって、少なからず害を与えることを教えておかなければなりません。

親としては、たかがお酒、たかがたばこといった考えが重大な結果を招くことを自覚すべきです。

4. 異性との交際

異性と遊び遅い帰宅

Question —質問—

中学生の娘が異性の友だちとつきあい、**帰りが遅くなる**ので心配です。



Answer —答え—

頭ごなしに、**くどくどと説教してはいけません**。子どもと話し合っ、出かけるときは、行き先や帰宅時刻を親に知らせるなどのルールづくりをしましょう。ふだんから子どもと何でも話せる関係を保つように心がけましょう。

好きな異性がいるのは自然なこととして認めましょう。異性とのつきあいを厳しく禁止すると、うそをついたり隠しごとをしたりするようになります。しかし、放任しすぎてもいけません。自分も相手も大切に作る交際の仕方をアドバイスしましょう。誰とつき合っているのかをオープンに話せる親子関係が理想です。また、誰も望まない妊娠はダメであることなどを、お母さんが日常生活の中で何気なく、かつ、しっかりと話しておきましょう。

Column -コラム-

なぜ安易に性行為をしてしまうのか

幼いころにお母さんお父さんの愛情を求めて、それが満たされなかった子どもは、そのさびしさを埋めるために、つい異性の肌のぬくもりを求めてしまいます。まるでゲームのように性行為をしたり、多数の異性とつき合ったり、別れたりを繰り返す中高生は、心の底では本当の愛情を探しているのです。幼いときから、親の豊かな愛情のもとで育った子どもは、安易に性行為に走ることはありません。



4. 異性との交際

異性と自室に

Question ー質問ー

中学生の息子が彼女を家に連れてきて、二人で自分の部屋に長い間入り込んでいます。とても心配です。



Answer ー答えー

頭ごなしにどなったり、しかったりしてはいけません。好きな異性がいるのは自然なこととして認めてあげましょう。しかし、性的な関係をもってはいけないことをはっきりと伝え、彼女を帰宅させる時刻などの交際についてのルールを決めましょう。

精神的、経済的に自立した大人になり、妊娠に対して責任をとれるまでは、どんなに愛していても、女性を傷つけてはならないことなどを教えましょう。日ごろから息子と話ができる関係をつくっておきましょう。

Column —コラム—

個室

親は、「勉強に集中できるように」「子どものプライバシーのために」という思いで子どもに個室をもたせます。しかし、個室の中にテレビやコンポや電話など、本来家族で共有すべきものがないかを考えてみる必要があります。すべてがそろっていると、子どもは無制限に個室にこもりきりになります。その結果、家族との会話が減り、早寝早起きなどの家庭のルールを守らなくなります。

子どもにとって、個室は必ずしも必要なものではありません。必要なのは、子どもが自分一人で没頭できる時間と空間です。それは、居間や廊下のすみっこでもかまいません。どんなところであれ、大人に干渉されない時間と空間があればよいのです。個室のように閉鎖された空間やあふれるモノは、かえって子どもの自立を妨げます。



4. 異性との交際

友だちの家に外泊

Question ー質問ー

友だちの家に泊まりたいと言うのですが、どうも異性の友だちの家のように心配です。

Answer ー答えー

異性との外泊は絶対に認めてはいけません。異性にかぎらず、中学生が友だちの家に泊まる理由はまったくありません。文化祭の打ち上げなどで、友だちの家に泊まりたがる場合がありますが、必ず帰宅させましょう。

持ち物、服装、帰宅時刻、交友関係、言動などにそれとなく気を配り、変化を見逃さないようにしましょう。変化に気づいたときは、タイミングを逃さず対処しましょう。「みんな泊まっているのに、私だけがどうしてだめなの」と言うかもしれません。しかし、親としては非常に心配であることを率直に伝え、絶対に外泊を許してはいけません。ここは、親として譲ってはならないところです。





Column -コラム-

思春期の性教育

性教育をどうするかは、親共通の悩みだと言えるでしょう。いつから始めたらよいのか、どんなことを教えたらいのか、迷ってしまいます。確かに、いつ性教育をするかはむずかしい問題です。それは、思春期の子どもの性知識に大きな違いがあるためです。大人顔負けの子どももいれば、まったく関心のない子どももいます。

最近、若年の妊娠や妊娠中絶、性感染症が増えています。これらは、性知識の不足によって招かれることが多いわけですが、特に、性感染症は個人にとどまらず、多くの人に被害を及ぼす危険性が高いものです。そう考えれば、早い時期からの性教育は必要で、とりわけ、性交や避妊、性感染症についての知識をもつことは大切です。

今、学校では、養護教諭をはじめ、地域の医師、保健師、看護師、助産師らをゲストティーチャーに迎えて性教育を行い、成果をあげています。まずは、学校や保健センターに問い合わせ、相談してみましょう。

5. 学ぶ意欲・習慣

学ぶ意欲の低下

Question ー質問ー

最近、勉強しなくなり、成績が落ちてしまいました。とても心配です。

Answer ー答えー

「やる気をだせ」、「勉強しなさい」と、がみがみ言うのは百害あって一利なしです。なぜ成績が落ちたのか、その原因を冷静に話し合みましょう。また、努力していることを認めて、ほめてあげましょう。

テストの点数だけでつい子どもを評価してしまい、また、子どもの短所ばかりが気になりがちです。そうではなく、子どもの長所を認め、ほめてあげましょう。親も子どもも、今は気づいていないのかもしれませんが、どの子にも、必ずよいところがあります。温かい気持ちをもって見守ってあげましょう。

Column ーコラムー

やる気をなくすとき

子どもがやる気をなくす時はさまざま
自分は一生懸命努力して勉強した度の点数を期待していたのに、その期待
大人でも同じように、努力しても、そ
しくなってやる気が出ます。

思春期の子どもは、それぞれ努力の程
子どもの努力がまわりに認められている
わりが正しく認めることが、やる気を生





まですが、簡単に言えば、自分の努力がまわりの大人（親や先生）や友人から認められない時です。たとえば、のにテストの点数が思ったより低く、親からひどくしかられる時があります。自分の努力に対してある程がはずれ、なおかつ親にも認められないという状況です。

の努力を誰も認めてくれない時はやる気をなくします。反対に、自分の努力を誰かが認めてくれば、嬉度は違うでしょうが、自分の生活の中で頑張っているのです。子どもがやる気をなくしていると感じた時は、かどうかに心を配りましょう。子どもの小さな努力でも、それを認めてあげましょう。子どもの努力をまむことになるのです。